

海上保安庁情報誌



かいほ

ジャーナル

2009年 夏号
Vol.39

特集

湘南海上保安署レポート

マリンレジャーのメッカ 湘南を守る

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD



Japan Coast Guard Journal Vol.39

C O N T E N T S

グラビア

01

- ・平成21年度 海上保安庁観閲式及び総合訓練 ————— 01
- ・第2次ソマリア周辺海域派遣捜査隊の任命式 ————— 02
- ・世界初!海底で地震後のひずみ解消から蓄積開始に至る動きを捉えた(宮城県沖) ————— 02
- ・密航船を追跡、逮捕!(対馬) ————— 03
- ・貝塚港で火災船発生!(大阪) ————— 03

特集

マリンレジャーのメッカ 湘南を守る

【湘南海上保安署】

高校生現場ルポ 宮城県水産高等学校

【第二管区海上保安本部 仙台航空基地】

NEWSFLASH

12

INFORMATION

裏表紙

CD「ザ・コーストガードバンド」ついにリリース!
海上保安大学校・海上保安学校採用試験のご案内



表紙：湘南海上保安署巡視艇うみかぜの船上。右に見えるのは江ノ島です。

平成21年度 海上保安庁観閲式及び総合訓練

25th-26th April.2009



4 月25日及び26日に予定していた観閲式及び総合訓練は、25日は荒天のため中止となりましたが、26日はうねりと風が残りつつも晴天に恵まれ、東京湾羽田空港沖で開催しました。観閲式では、海上保安庁の船艇・航空機をはじめ、関係機関の船艇・航空機が参加し、外国からは航空機として初参加となる**1**米国沿岸警備隊「C-130」が参加しました。

26日には**2**麻生内閣総理大臣が首相として初めて乗船し、飛沫をあげて航走する巡視船艇等を観閲しました。総合訓練では、**3**人命救助訓練、**4**密輸容疑船追尾・**5**捕捉訓練等のほか、今年は**6**高速・機動連携訓練を実施し迫力のある訓練が行われました。

中 止となった25日は、乗船を楽しみにしていた方々のために急遽、巡視船やしま（晴海ふ頭）、巡視船いず（横浜海上防災基地A岸壁）及び**7**横浜海上防災基地の一般公開や、**8**海上保安庁音楽隊によるミニコンサートなどを実施し、雨の中ご来場いただいた方々に楽しんでいただきました。



出迎え演奏(26日)

第2次ソマリア周辺海域 派遣捜査隊の任命式

29th June.2009

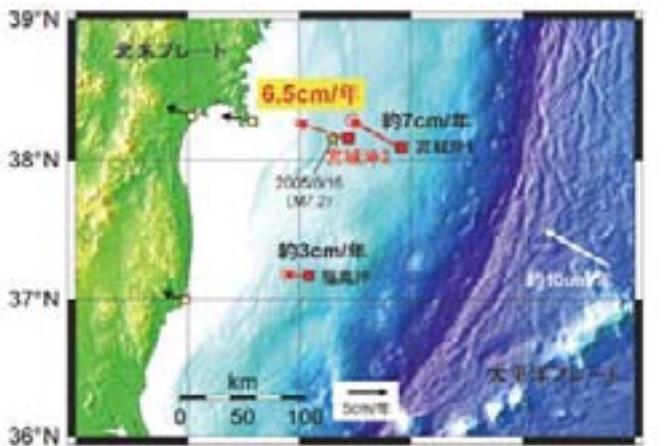


6月29日、長官室において、第2次ソマリア周辺海域派遣捜査隊の任命式が行われました。

第2次隊に任命された千田亨隊長ほか7名は、海上自衛隊の護衛艦「はるさめ」及び「あまぎり」に同乗し、ソマリア周辺海域に派遣されている1次隊と交代することになり、引き続き海賊の逮捕、取調べ等の海賊に対する司法警察業務に的確に対処していくこととしています。



世界初! 海底で地震後のひずみ解消から 蓄積開始に至る動きを捉えた(宮城県沖)



「宮城沖2」海底基準点の速度ベクトル

赤矢印: 海底地殻変動観測で得られた年間移動量
白矢印: モデル値の年間移動量
黒矢印: 陸上のGPS観測で得られた年間移動量

海底に設置してある基準点
JAMSTEC提供



海上保安庁で実施している海底地殻変動観測では、今回、宮城沖の基準点で新たな成果が得られました。平成17(2005)年8月16日に宮城県沖で、図の★印を震央とする地震が発生し、その地震の前後で東に約10cm位置が変化し、その後、2007年頃までは位置の変化は殆どありませんでしたが、2007年頃から年間6.5cmの速さで西北西に移動し始めたことがわかりました。

これは、海底において、地震による地殻ひずみの解消→1年程度の移行期間→再びひずみの蓄積開始という、一連の過程を世界で初めて捉えたもので、この成果は今後の宮城県沖地震の場所や大きさの予測に役立つと期待されます。

密航船を追跡、逮捕！(対馬)

3rd July.2009

7月3日、第七管区海上保安本部は、独自に入手した密航情報に基づき九州北岸において巡視船艇等により警戒中、長崎県壱岐島北方海域において壱岐海上保安署所属巡視艇「いきぐも」が航行中の不審な小型船舶を発見しました。同巡視艇が接近したところ小型船が反転し逃走を開始したため、対馬海上保安部所属巡視艇「やえぐも」とともに荒天の海上を、約40分間にわたり追跡した結果、午前1時40分頃、小型船を停船させました。船内を調査した結果、男性4名（うち乗組員2名）、女性5名の外国人を発見し、その後の調査で、韓国から日本向けの密入国の事実が判明したため、9名全員を出入国管理及び難民認定法違反で逮捕しました。



捕捉した小型船舶



逃走する可疑船



発見された密航者

貝塚港で火災船発生！(大阪)

14th June.2009



6月14日午前0時頃、貝塚港（大阪）貝塚2号岸壁でスクラップを積荷中のカンボジア船籍貨物船SUN YARDで火災が発生、海上から消防船かいりゆうを含む巡視船艇6隻のほか、消防車両により陸上から消火にあたりました。同船乗組員11人（中国人）に怪我は無く、同日午後0時15分に無事鎮火しました。

マリンレジャーのメツカ 湘南を守る

海水浴シーズンになると海は大勢の人で賑わう。しかし同時に海難事故も多発し、海上保安庁にとっては大忙しのシーズンとなる。そこで湘南エリアの海を守る湘南海上保安署を尋ね、彼らの仕事ぶりを拝見させていただいた。

江

ノ島を中心とした湘南エリアはマリンレジャーのメツカとして全国的に有名である。海水浴シーズンの週末ともなると、湘南エリアだけでも10万人以上の人が訪れるという。そんな湘南エリアの海を守る、海難救助などを行うのが、江ノ島ヨットハーバー内に設けられている湘南海上保安署だ。

湘南海上保安署に所属するメンバーは14人。そのうち陸上勤務者が4人、船に乗り組んでパトロールやレスキューを担当するクルーが10人という構成だ。配属されている船は、

巡視艇「うみかぜ」、警備救難艇、そして水上オートバイの3タイプ。これらを運用するポイントの海の深さや用途に合わせて使い分けている。

メインとなる巡視艇「うみかぜ」の乗組員はそれぞれ5人編成の第1クルーと第2クルーに分けられる。「複数クルー制」で、これは平成20年に湘南海上保安署が全国に先駆けて採り入れた。通常は朝6時から午後2時半までの早番と午後1時半から夜10時までの遅番による交代で、365日いつでも出動できる体制となっている。



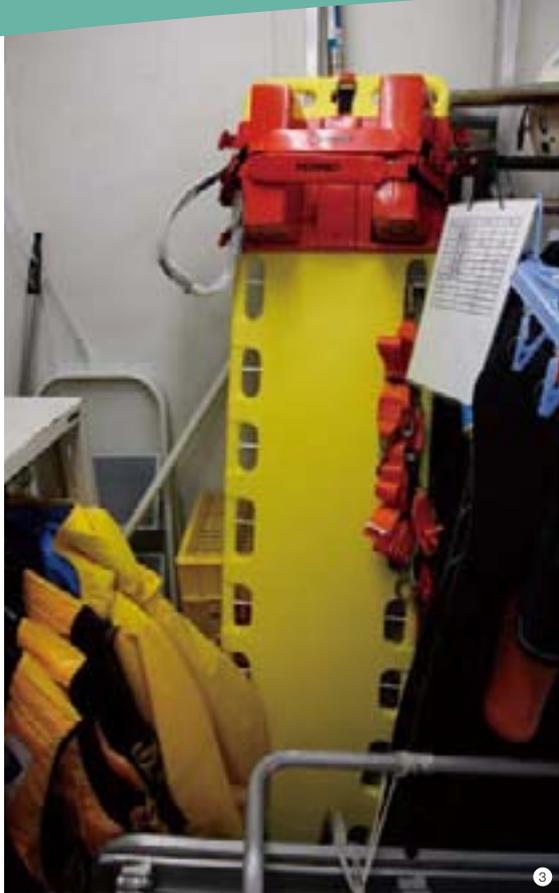
特集 湘南海上保安署レポート



今回お話しを聞かせていただいた松谷船長と佐々木保安署員のお二方



江ノ島ヨットハーバーの一角に湘南海上保安署が設置されている。



①②マリネジャーを楽しむ人たちが集う湘南。そのため海難事故の種類も様々だという。③首を動かさないような大怪我をした人を安全に運ぶためのストレッチャーも用意。岩場での事故が多い江ノ島ではかかせない。④ウェットスーツも常備。署員はダイビングの訓練なども行っているという。⑤保安署に掲げられたプレートは署員の手彫りによるものだという。⑥沖合には巡視船「いず」が錨泊し、事故発生に備えていた。

なお、水上オートバイが配属されている部署は非常に珍しく、第三管区内でも3艇しかない。湘南のように様々な海難事故が予想される地域では、浜辺でのトラブルも数多い。水上オートバイならば、巡視艇や警備救難艇の入り込めない水深50cmのような浅瀬でも入って行けるため重宝しているという。

湘南海上保安署はその守備エリアがマリネジャーのメッカということもあって、海難事故の発生率が高く、1日に3、4件事故が重なることもあるという。事故の内容もヨットやボートのエンジントラブルから岩場での転落事故まで多岐にわたる。そのため、ウェットスーツや、頭を固定する特殊なストレッチャーなどを準備しているのも湘南海上保安署の特色で、署員も自発的に訓練を行っているという。

**マリネジャーを
楽しむ人たちの
安全意識を高める**

マ

リンレジャーでのトラブルが一番多いのは水上オートバイ。手軽にスポーツ



巡視艇「うみかぜ」によるパトロールでは、常に周囲に目を配り、ライフジャケットなどを身に付けていない人やトラブルに見舞われている人がいないか監視する。

が楽しめる分だけ、事故も数多く発生している。例えば、相模川の河口付近は大きな波が立つために、水上オートバイが波の影響を受けて転覆したりすることも多いという。また海水浴客の近くを猛スピードで走り抜けるなどの行為も目立ち、そういった暴走行為や、騒音などの苦情も多い。

最近ではミニボートが増えてきた。このミニボートは無免許で操縦することができる2馬力以下、3m未満の小型ボートで、現在かなり普及しており、ミニボートユーザーの事故も増えてきているという。ミニボートはバランスが悪いため転覆しやすく、無免許で操縦できるため、十分な知識を持たずにボートを購入、持ち込んで事故を起こす例が絶たないという。

このように事故の多くが海のルールを知らないこと、海を甘く見ることと起因しているため、保安署員はマリッジジャーを楽しんでいる人たちに3つの基本を周知徹底させるとともに、マナー向上のためのアドバイスを行っている。

3つの基本とは「ライフジャケットの着用」「携帯電話等の連絡手段を確保」「万が一の際は118番へ連絡」

パトロールで安全指導 ひとりひとりの安全意識が 海難事故を防ぐ鍵だ



というものだ。海は陸上と違って、状況が急変することも珍しくなく、また周囲に仲間がいなければたちまち孤立無援になってしまう。そのため、自分の命を守るための装備と心構えを持たなければならぬ。マリジャーを楽しむ人たちの中には、海を甘く見ている人も数多く、揚げ句の果てにライフジャケットを着用して海に入り、飲酒して「避暑」するという者まで現れているという。

湘南海上保安署のメンバーもマリジャーのメッカ湘南という特性に合わせて、あらゆるマリンスポーツの特性を理解して、様々なトラブルに対応する訓練を続けているが、自分の身を守る第一の手段は自分の意識にあるということを理解してもらいたいとのことだ。

連携プレーで 迅速な人命救助

湘

南海上保安署の守備範囲は鎌倉から湯河原までと非常に幅広い。そのため海難の通報が入った場合には地元警察署や消防署と情報を共有。



3

①藻が絡まってエンジンが止まってしまった水上オートバイを安全な場所まで誘導、復旧の手助けをした。②定係地で待機する巡視艇「うみかぜ」と水上オートバイ。この他に警備救難艇も保有している。水上オートバイの保有は全国的にみても例が少ない。③ライフジャケット着用を促して、安全に関するパンフレットを渡す。④地元の学校などで、海へ転落した場合の着衣水泳などの安全指導も行っている。実はこのペットボトルだけでも人間が浮くということも説明し、助かるための知識を広めている。⑤陸上でも海に関するトラブルで出動するケースは多い。これは境川にオイルが浮いているとの通報を受けての処理作業の一コマ。どうやらオイル缶を投げ捨てた輩がいたらしい。

マリンレジャーのメッカ 湘南を守る



4



5

さらに地元水難救済会とも連携をとるなどして、迅速に人命救助が行えるように努力している。こと救助に関してはお互いなわばり意識は持たないという。

また、巡視艇の複数クルー制を活かして、片方のクルーがパトロール中などで出動している間に、待機クルーが地元の学校をまわって、着衣水泳などの安全指導などを実施している。このようにして地元とも密着しながら、湘南海上保安署のメンバーは湘南の海を守り続けているのだ。

9

高校生現場ルポ

宮城県水産高等学校

今回は、宮城県水産高等学校の伊藤知博君、葦名重信君、山岸龍先生が仙台航空基地を取材しました。



仙台航空基地は、主として東北地方を管轄する第二管区海上保安本部の下部組織です。東北の空の玄関「仙台空港」に併設、昭和38年4月1日の開設から現在に至っています。仙台航空基地は、一般的な海上保安業務の他に航空機職員の教育機関である海上保安学校宮城分校の支援も併せて行っています。

私たちは、ドラマ「海猿」や、数々の活躍をしている海のニュースはもちろんのこと、地震の被災地で海上保安庁特殊救難隊が被災者をガレキの中から救援しているシーンが心に残っており、以前から海上保安庁に興味がありました。今回の取材の話をいただき、期待に胸を膨らませて訪問することになりました。

6月24日(水) 仙台航空基地を訪問

石巻を発って二時間半、仙台航空基地を訪問しました。同基地は、仙台空港の脇の入り口からしばらく歩くと基地の建物に到着します。2階会議室に案内され、まず海上保安庁について説明を受けました。

海上保安庁は全国を十一の管区に分け、海の警察と消防の役割を担い、海図の作成なども行っています。その中で第二管区は東北全域をサポートしています。仙台航空基地は、第二管区唯一の航空基地で、広い海域を空から効率よくカバーしています。足の速い固定翼(飛行機)で迅速に広範囲にしよう戒を行い、その場で停まれるという利便性を活かした回転翼(ヘリコプター)で現場に急行する事ができ、それぞれの特性を活かした活躍がなされていることがわかりました。



初めてのヘリコプター同乗に興奮!

今回の取材ではヘリコプターに同乗させてもらい、空からのしよう戒に参加しました。ヘリコプターは近くで見ると意外と大きく、プロペラの長さも予想以上で、鮮やかなスカイブルー2色とまっ白な機体でとても爽やかな印象を受けました。

飛行中にも住んでいる町並みを空から見ると、とても小さく、ミニチュアの模型のように見え、さらに高度を上げるとまるでICチップの配線のような景色で驚きました。



ヘリコプターは140ノット以上(時速260キロ以上)出るそうで、2時間半もかかった石巻から仙台基地までの距離を20分たらずで飛行したのでびっくりしました。海難事故が起きた場合、この速さで現場に駆けつけて救助に向か





う、こういった活躍がとても人の役に立つ事なのだと思えて感じました。機体の中は一見狭そうに見えましたが、実際には意外に広く、乗る前に搭乗員の方が言っていたほどエンジン音はうるさく感じません。乗り心地は、揺れもほとんどなく快適でした。

金華山を一周、空から海を見守る

ヘリコプターで海岸線を北上し、女川原子力発電所と金華山灯台を一周、私たちの学校のある石巻上空からは万石浦湾を見ることができ、養殖で使う浮きなどが点在していました。

金華山灯台は現在無人なので、巡回をして異常が無いかをみているそうです。

す。灯台横のヘリポートには野生の鹿がごろごろと寝そべっていて、のどかで平穏な世界にホッとさせられました。



海上捜索の大変さを実感

仙台航空基地では、漁業関係者の生活を守るために、夜間に赤外線カメラで密漁者を見つけたり、女川原発では不審船等が来ないかなど、昼夜を問わず空から監視をしているそうです。

海岸線にはサーファァーがたくさんいましたが、肉眼ではとても小さくゴマ粒のように見えました。ヘリコプターでの海難時の海上探索は人が波に隠れて見えなかつたり、漂流物と間違えたりするため慎重に探さなければならぬとのことで、優れた観察力と的確で俊敏な動きが要求される大変な作業だとつくづく感じました。



ハイテク双眼鏡で監視!

帰路で海上捜索用に使う双眼鏡を貸してもらいました。この双眼鏡にはジャイロ機能がついていて、ボタンを押すと、手ブレがなくなりしっかりと地上の様子を捉えることができます。



素敵な女性機長

今回乗せていただいたヘリコプターの灘波機長は女性の方でした。さっそうとした仕事ぶりはとても格好良く、その他の乗組員の方々もオレンジ色の航空服でさびびした動きは青空によく映えてとても輝いて見えました。



入念なチェックに感心

ヘリコプターは基地に戻ってきてもすぐには降りません。着陸後、一つ一つ慎重にチェックしながらとても長い時間をかけてエンジンを切ります。いかに安全を第一に心がけているか、仕事の厳しさを身をもって実感しました。この慎重さは我が校の実習時と同じだと感じました。

取材を終えて

航空基地では自然災害や油の流出の発見、海難事故等の救助活動、船内の急病人の搬送なども行うそうです。最近では、平成19年に起きたJANE号座礁事故の救助や、岩手宮城内陸地震で孤立地区から多くの被災者を救助したそうです。どれだけ多くの人の命や家族を守ってきたか、計り知れないこの仕事の偉大さを感じました。

取材を続けていく中で、海上保安業務の様々な苦労話を聞きましたが、私の目には苦労を通り越してとても生き生きとした海上保安官の人たちの表情に出会い、その大変さの中に海上保安庁の仕事に対する誇りや好奇心を肌で感じ取ることができました。

自分たちは高校生活の限られた時間の中で、自分の将来についてよく考えていかなければならないのだということを再認識し、海上保安庁は人の命を守るとてもやりがいのある仕事だということを再確認できた今回の取材でした。



高校生の今の時期は、将来自分がどのように生きてゆくのかを考える大切な時期であり、様々な職種の中から一生の仕事を見つけていくことになるだろうから頑張っていきたい。【仙台航空基地】

6月2日～3日 東京

**第2回アジア海上保安機関
実務者会合**

アジアの17カ国及び1地域の海上保安機関（24機関）が集まり、キャパシティービルディング（能力向上）について活発な議論が交わされました。



5月16日～17日 東京

測量船「明洋」一般公開



第62回東京みなと祭では、本庁海洋情報部所属測量船「明洋」が一般公開を行いました。同船は海流や海底地形等の調査の他、海底地殻変動観測に対応している測量船です。



7月18日～29日 東京、横浜

海上保安庁音楽隊 夏のイベントで大活躍！

海フェスタ（横浜）、巡視船いず体験航海（横浜）、サマーコンサート（東京）と、様々なイベントでマーチや、映画音楽など、大人から子供まで楽しめる曲を演奏しました。



6月1日～30日 全国各地

未来に残そう青い海！海洋環境保全推進月間

6月1日から30日の海洋環境保全推進月間では、海洋汚染防止活動を積極的に実施し、全国各地において、漁業者や海事関係者等を対象に油の不法排出防止や廃船等の不法投棄防止を重点とした講習会や訪船指導による啓発活動を実施したほか、小学生等を対象にした海洋環境保全教室を開催しました。



5月3日 清水海上保安部

御前埼灯台に「喜びも悲しみも幾年月」歌碑建立



御前埼灯台の構内に「喜びも悲しみも幾年月」の歌碑が建立されました。同日には灯台祭りが開催され、賑やかな一日となりました。



7月5日 海上保安学校

五森祭



海上保安学校では恒例の五森祭が開催され、ローブワーク教室や制服ファッションショー、みうら体験航海等さまざまなイベントを実施しました。



6月29日 東京

青い羽根着用キャンペーン
ミス日本「海の日」首相表敬訪問



全国各地

水難救済会との合同訓練

海の犠牲者ゼロを目指し、全国各地で水難救済会と合同で心肺蘇生法等救難講習や、水難救助訓練等を実施しています。



釜石海上保安部



福島海上保安部

海のレスキューボランティア

社団法人日本水難救済会

社団法人日本水難救済会では、ボランティア救難所員が行う海難救助活動を支えるための募金活動を行っています。

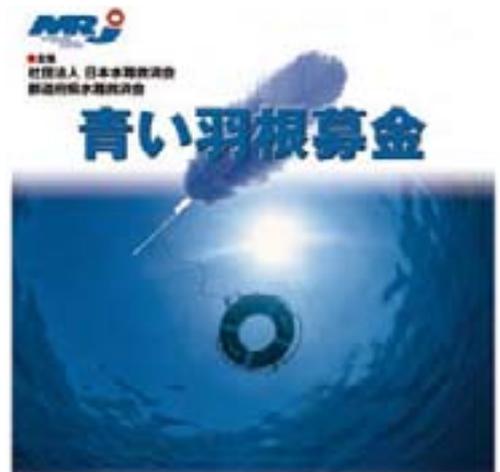
青い羽根募金活動は毎年周年行われていますが、7月中旬の「海の日」を中心に7・8月を強調運動期間として全国的に実施しています。

みなさまの募金により、

海の犠牲者ゼロ

を目指して今後も頑張っていきます。

青い羽根募金はちょコム、郵便局、銀行で募金できます。ご協力お願いします。



問い合わせ先

募金フリーダイヤルでお申し出下されば振込料無料の専用郵便振替用紙をお送りします。

☎0120-015-587

社団法人 日本水難救済会 ホームページ
URL : <http://www.mrj.or.jp/>

INFORMATION

海上保安制度創設60周年記念演奏会

米国コーストガード音楽隊・海上保安庁音楽隊 夢の共演

CD「ザ・コーストガードバンド」 ついにリリース

平成20年11月に初来日した米国コーストガード音楽隊と海上保安庁音楽隊との歴史的なコンサートを収録。日米各音楽隊の単独演奏はもちろんのこと、合同ステージではより一層熱い演奏を披露。記念すべき一枚が完成しました。

購入は最寄りのCD販売店又は海上保安協会へお問い合わせください。

「ザ・コーストガードバンド」

■製造番号：CACG-0133 ■製造会社：CAFUAレコード

■発売日：2009.5.20 ■録音：2008.11.28~29



海上保安協会

海上保安思想の普及宣伝を目的に、さまざまな印刷物、イベント、交流活動などを通じて、海上保安官の活躍を紹介している団体です。

〒104-0043 東京都中央区湊3-5-10 セントラル新富町ビル6階
電話：03-3297-7580（代） FAX：03-3297-7590



【レコード芸術誌 特選盤作品】

レコード芸術7月号で、「ザ・コーストガードバンド」が特選盤に選ばれました！

海上保安大学校・海上保安学校採用試験

海上保安庁では、当庁の職員の養成機関である海上保安大学校及び海上保安学校の学生を募集しています。

試験は、高等学校等卒業者を対象に行われます。

試験の日程については、右のとおりです。

詳しくは、最寄りの海上保安本部または海上保安庁総務部教育訓練管理官（TEL 03-3580-0936）までお気軽にお問い合わせください。



平成21年度採用試験



【受付期間】平成21年8月27日（木）～9月8日（火）
【第一次試験】平成21年10月31日（土）～11月1日（日）



■海上保安学校学生採用試験
【受付期間】平成21年7月21日（火）～8月4日（火）
【第一次試験】平成21年9月27日（日）

学生採用試験HP

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/saiyou/bosyu/index.html>

かいほジャーナル39号

平成21年7月31日発行

編集・発行：海上保安庁 政策評価広報室

本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

118冊